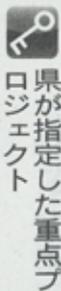


リハビリ用ロボ 中小企業が挑む

ロボ特区の県央、県も実用化へ支援

国から今年2月に「さがみロボット産業特区」に指定された県央地区。県も実用化が見込まれる事業を重点プロジェクトに位置づけ、実験の支援に乗り出した。その一つは、手の関節を動かすリハビリ用のロボット「パワーアシストハンド」。

販売に向けて改良に取り組み中小企業経営者たちを訪ねた。看板屋、写真店、酒屋、金物屋……。「パワーアシストハンド」の開発を担うのは、厚木青年会議所OBの中小企業の経営者ら6人。子供のころ、鉄腕アトムにあこがれた世代だが、ロボット製作にはかかわることがなかった。



県が指定した重点プロジェクト

県は市場に出回る製品化が早期に見込めるプロジェクトに絞り、介護や災害に対応する12の企業や団体のロボット構想を指定した。うち9事業に1事業あたり最大50万円を支出。事業者が治験モニターや施設への謝礼にあてる費用を負担し、実証実験を支援する。実験は国の指定を受けた「さがみロボット産業特区」内で実施される。



①左手のスイッチを押し、右手に装着した「ハンド」を動かして操作する②「チームアトム」のメンバーら＝いずれも海老名市上郷4丁目



神奈川工科大などがあり、もともとロボットの研究が盛んな県央地区。写真店を営む北村正敏さん(61)はロボットで町おこしができるかと考え、2009年春に同大の山本圭治

郎教授(現特命教授)に相談し、「ハンド」の開発を勧められた。

脳卒中や外傷で、手がまひして動かない人に指に沿わせる形で細長い袋を装着し、袋に空気を送り込んで手を開いたり閉じたりすることで動作の回復を図る仕組み。「高齢化が進めば介

事業主体	内容
北里大学	センサーを活用し、高齢者の見守りや遠隔診断に役立つシステム
日本精工	視覚障害者を案内する盲導犬ロボット
CQ-S ネットなど	照明機器内蔵のレーザーが高齢者らの動きを測定し、容体急変時に警報を出すシステム
沖電気工業	センサーを活用して高齢者の生活を見守るシステム
富士ソフト	高齢者向けの人型会話ロボットのソフト部分
タウ技研など	災害時に生存者を探索するロボット
三菱重工	災害状況把握のため、人が入れない場所を撮影する走行ロボット
日産自動車	高齢者の安全運転を支援するシステム

県が実証実験を支援する重点プロジェクト

護用ロボットのニーズが出てくる」と考え、仲間5人と同年8月に「チームアトム」を立ち上げた。

それぞれの仕事をこなしながら、夜に看板屋の岸野義人さん(49)の海老名市の工場に集まって開発を進めた。苦労したのは、袋と指の間の素材だった。布製の加工を依頼。それぞれの会

社から材料を持ち寄り、足りない分はみんなで購入して補った。

16年度の販売開始を目指し、県は今年8月、「ロボット特区」の重点プロジェクトの一つに「ハンド」を指定した。県の研究所で耐久性や安全性のテストをしつつ、医療機関でまひの残る患者に使ってもらって効果を確かめ、薬事法に基づく医療機器としての認定を目指す。代表で印刷会社専務の井浩二さん(61)は「患者によってまひの症状は異なる。大勢の使い勝手を聞いて、改良していきたい」と意気込む。(鹿野幹男)